



令和4年2月分 名古屋港貿易概況（速報）の要旨

令和4年2月分について、輸出額は「航空機類」などが減少したものの、「金属加工機械」、「電気計測機器」、「半導体製造装置」などが増加したことから、対前年同月比15.0%の増加となった。また、輸入額は「液化天然ガス」、「アルミニウム及び同合金」、「石油製品」などが増加したことから、同27.8%の増加となつた。

その結果、差引額は5,573億円（同5.5%の増加）となった。

注）本資料中の「伸率」及び「増加・減少」は、前年同月比による
また、★印は全ての月を通じて過去最高を示す（1979年1月以降のデータを基礎として比較）

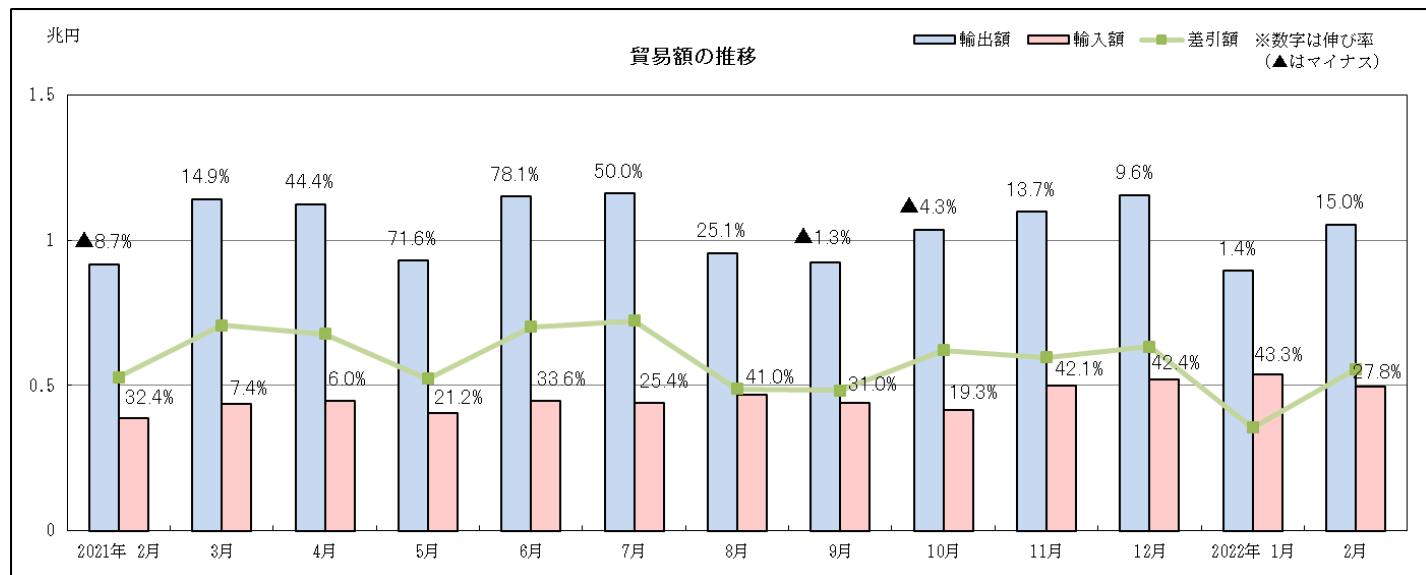
○総額

区分	輸出額	伸率	輸入額	伸率	差引額	伸率
名古屋港	1兆551億円	+15.0%	4,978億円		5,573億円	+5.5%
	4ヵ月連続の増加		13ヵ月連続の増加		6ヵ月ぶりの増加	
管内（名港シェア）	1兆6,620億円 (63.5%)		9,174億円 (54.3%)		7,446億円 (—)	
全国（名港シェア）	7兆1,901億円 (14.7%)		7兆8,583億円 (6.3%)		▲6,683億円 (—)	

注）名古屋港における差引額は、平成23年6月以降129ヵ月（10年9ヵ月）連続 全国港別（空港を含む）第1位

○主な増減品目

		概況品名	金額	伸率	寄与度	増減
輸出	(1)	金属加工機械	387億円	+53.1%	+1.5	12ヵ月連続の増加
	(2)	電気計測機器	398億円	+40.8%	+1.3	11ヵ月連続の増加
	(3)	半導体等製造装置	158億円	+132.1%	+1.0	8ヵ月連続の増加
輸入	(1)	航空機類	45億円	▲43.7%	▲0.4	9ヵ月連続の減少
	(1)	液化天然ガス	739億円	+98.5%	+9.4	8ヵ月連続の増加
	(2)	アルミニウム及び同合金	264億円	+41.4%	+2.0	14ヵ月連続の増加
	(3)	石油製品	149億円	+69.1%	+1.6	5ヵ月連続の増加



★名古屋港について・・・

本資料における名古屋港の数値は、輸出入された貨物の蔵置場所を管轄する次の税関官署を基準に集計しています。

名古屋港の税関官署とは、名古屋税関本関（含岐阜政令派出所）、中部外郵出張所、南部出張所、諏訪出張所（含長野政令派出所）、西部出張所をいいます。